

中五島高校の 一人一人を大切に する教育

—特別支援教育の確立に向けて—

2019年度、異動してきましたおのうえなおこ尾上直子と申します。
特別支援学校を長く経験してきました。中高では、
特別支援教育コーディネーターとカウンセラーを務めます。

実は、生まれつき「左前腕欠損」で、障害という言葉には敏感です。



障害を
持っている

障害を「欠けている」「できない」とマイナス面ととらえて、原因をその「障害」に置くので、障害が改善しなければ生活も社会参加も困難になります。



障害がある

生活や社会参加をするために「障害」「困難」「やりにくさ」がある、という視点です。

【支援】【工夫】があれば生活や社会参加ができる、つまり「環境を整える」という考え方です。



身体障害のように「見えやすい障害」と内臓疾患や発達障害など「見えにくい障害」があります。全ての障害を「生きづらさ」「生活しにくさ」ととらえ、「自分はこのがあれば生活できる」と本人が思えるように、周囲の環境を整えるとともに、本人もスモールステップを踏んで「生きる力」を身に付けていきたいものです。

特別支援教育とは、一人一人の【困り】に気づき、一人一人の成長の目標を達成するために、どのような授業の工夫や支援が必要かを考え、授業改善を繰り返し、学校の支援体制を整える教育です。

中五島高校では、『一人一人を大切に
した教育』を掲げ、これまでの「特別支援教育の研究」に加え「特別支援教育の確立」に舵かじを切りました。生徒の【困り】に気づき、支援体制を考え、職員全員で行動していきます。

◆ 今年度の取組 ◆

- ・「生徒アンケート」実施 ⇒ 生徒の【困り】の把握
- ・支援体制の工夫
- ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」による目標設定と授業改善
- ・教育課程の検討
- ・通級指導教室の導入